

丁寧さにおける フェミニズム言語研究の再考

—日本語と韓国語における敬語行動の男女差の比較を通じて—

巖 廷 美 (ム・ジヨンミ)

1. はじめに

1960年代に欧米中心に始まったフェミニズム思想は言語学にも波及し、膨大な数の、女と言語に関する研究が行なわれたきた。その分野は多岐にわたり、言語のさまざまな側面が研究対象として取り上げられ、その社会的な意味が問われてきた。言語の背後にある女性差別イデオロギーの撤廃を目的とするフェミニズム言語学の中で、特に女性語研究の原点とも言われる R. Lakoff (1975)の研究以降、「女性語は普遍的な丁寧さの枠組みの中で論じられるべきであり、女性が男性より丁寧に話し、話さざるを得ないのは、現実社会における女性の力のなさによるものである」という大前提は十分に検証されることなく、あらゆる文化・社会においてユニバーサルであると考えられてきた¹⁾。

丁寧さが女性の言葉遣いの普遍的な本質であるとするフェミニズム言語研究は、それ自体性差別をみえなくしてしまう可能性をはらんでいると思う。それは、もし丁寧さの面において男女差のあまりあらわれない文化圏があるとしたら、その文化圏では女性の社会的地位が男性と同等なことになり、実際には存在するかもしれない性差別論理を明らかにすることができないばかりか、その性差別イデオロギーを覆い隠す理論的装置を提供することになりかねないからである。それぞれの文化・社会での女性と男性の言葉遣いの実態を明らかにした上で、総合的な視点で男女の言語使用の特徴の社会的意味を考えていかなければならないと思う。

そこで本研究では、非西欧圏でしかも非常に文化的にも類似点の多いと言われている日本と韓国の言葉について、Lakoffらの主張がこの両言語につ

いてもあてはまるか否かを検証してみたい。その方法は、両国の大学生の依頼談話の丁寧度の男女差を社会言語学的観点から比較検討することによる。ここで、依頼談話を取り上げるのは、「話し手受益行為」である依頼のストラテジーに女性語の本質であると考えられている「丁寧さ」がもっともよくあらわれると考えるからである。なお、本稿で用いる談話とは書き言葉・話し言葉またその文字化されたものも含む広義の概念である。また、本稿では、厳廷美(1997)の語レベルにおける分析に続いて、依頼表現の中で最も中心的な要素であると考えられる文レベルにおける分析を行うことにする。

2. 本調査の概要

2.1 調査対象

日韓とも大学生。性別以外の条件を揃えた日韓男女それぞれ50名ずつ、合計200名。年齢は18才から30才までで、所属校は日本側は東京近辺の9大学、韓国側はソウル近辺の10大学。出身地は日韓とも主に首都圏中心で、共通話話者に限った。

2.2 調査方法

依頼表現を使うような五つの場面を与え、実際にどのように言うのかを会話完成テスト(Discourse Completion Test)により答えてもらった。資料とした総談話数は被験者(50名)×性別(2)×場面(5)×国(2)の1000談話である。話し相手は同じ専攻の同年齢のクラスメートで学校で会えば軽い挨拶を交わすくらいのもそれ程親しくない親疎関係の人を想定してもらった²。

場面設定は絶対的負担の度合の相違(大一中一小)による5場面、すなわち、[場面1]教室の床に落ちているボールペンを拾ってもらう、[場面2]学校の教室で窓際に座っているクラスメートに窓を開けてもらう、[場面3]どうしても必要なテキストをクラスメートから安くして譲ってもらう、[場面4]共同研究の相談のために先生に行く約束を私用のために取り消し、自分の代わりに行ってもらう、[場面5]学科セミナー旅行費を払うためにお金を貸してもらう(日:5千円、韓:2万ウォン)、の5場面である。

2.3 分析方法

上記の調査方法によって得られた日韓の談話資料を二段階の分析方法によって分析を行う。第一分析では、言語学的専門知識を持っていないと思われる一般の人に談話の丁寧度の直観的評価をしてもらう。第二分析では、第一分析の結果を踏まえた上、談話の丁寧さに関する言語学的分析を行う。このように一般の人々の直感的判断と言語学的分析という総合的な分析方法を取ることで、より現実に基づいた言語使用の実態をつかむことができると考える。

2.3.1 第一分析

日韓男女の依頼談話における丁寧度を調べるために、さきの被験者とは別の男女名3名（大学生2名、社会人1名）計6名、両国合わせて12名の丁寧度判断者に日韓それぞれ500の談話資料を見せて談話の丁寧度を決めてもらった³。すなわち、丁寧度の最大・最小を両極とし、それを9段階に点数づけしたものさし⁴があると仮定し、判断者が感じた丁寧度の点数を答えてもらうという方法である。こうして、丁寧度判断者がつけた点数の平均値をもとに場面、性、国の違いの有無や程度を考察する。さらに、被験者・丁寧度判断者の性別と丁寧度の関係についても調べる。

ここで、判断者の性別を考慮するのは次のような理由による。もし、仮説通りに「女性が男性より丁寧に話す」としたら、同じ談話に対しても丁寧さの感じ方に男女差が見られるのではないかと考えるからである。つまり、女性の方が男性より丁寧さについてより厳しいので、女性判断者の方が男性判断者より低い点数を付けるのではないかと推測できる。これにより仮説の間接的検証ができると考えられるのである。

2.3.2 第二分析⁵

第一分析の結果を踏まえた上、談話に丁寧さをかもし出すと思われる言語的特徴について言語学的分析を行う。依頼表現は大きく分けて、直接依頼を伝える中心部分とその前後の謝罪・理由・約束などの周辺部分の二つに分かれていると言える⁶。本稿では、依頼表現の中心部分である主依頼文の文末

表現に焦点を当て、表現の押し付け度（間接度）と表現形式の種類という観点から丁寧度の男女差を比較分析する。

3. 分析の結果・考察

3.1 談話の丁寧度

分析方法の第一分析に添って計った丁寧度判断者の直感的評価⁷による談話の丁寧度の結果を話し手と丁寧度判断者の性別毎に見てみると表1と表2のようになる。ここで、丁寧度は日韓それぞれ6名の丁寧度判断者によってつけられた丁寧度の点数の平均値を算出したものである。例えば、表1の日本側の場面1の男性の2.32という数値は、まず、一人の談話を6人の丁寧度判断者に点数化してもらい、その平均値を出した。次に、そのようにして得た50人分の値を合計して平均値を出したものである。

表1 話し手の性差と談話の丁寧度（日・韓）

	日 本		韓 国	
	M	F	M	F
S 1	2.32	2.79	2.51	2.48
S 2	2.48	2.7	2.73	2.59
S 3	2.08	2.33	2.25	2.31
S 4	2.47	2.89	2.91	2.8
S 5	2.32	2.79	2.55	2.67
TOTAL	2.33	2.7	2.59	2.57

* S : 場面、M・F : 被験者（話し手）の性別

[話し手の性別と丁寧度]

表1で見ると、日本の場合はS1(M. 2.32, F. 2.79)、S2(M. 2.48, F. 2.7)、S3(M. 2.08, F. 2.33)、S4(M. 2.47, F. 2.89)、S5(M. 2.32, F. 2.79)のすべての場面において女性話者の談話の丁寧度が高いとされている。TOTALの丁寧度もM. 2.33, F. 2.7で女性の方がより高い。これに対して、韓国では日本とは違って、女性話者の丁寧度が高くなっているのは、S3(M. 2.25, F. 2.31)とS5(M.

2.55, F. 2.67)だけで、他のS1(M. 2.51, F. 2.48)、S2(M. 2.73, F. 2.59)、S4(M. 2.91, F. 2.8)では男性の方の丁寧度が高くなっている。TOTALの結果はM. 2.59, F. 2.57で男女の丁寧度の違いはほとんどみられない。

表2 丁寧度判断者の性別と丁寧度（日・韓）

	日 本				韓 国			
	M-Judges		F-Judges		M-Judges		F-Judges	
	M	F	M	F	M	F	M	F
S 1	2.7	2.8	1.96	2.77	2.57	2.66	2.46	2.30
S 2	2.54	2.73	2.42	2.66	2.72	2.55	2.75	2.64
S 3	2.25	2.47	1.91	2.19	2.14	2.21	2.36	2.41
S 4	2.67	3.10	2.26	2.68	2.91	2.78	2.92	2.82
S 5	2.5	2.81	2.14	2.77	2.43	2.61	2.67	2.73
TOTAL	2.53	2.78	2.13	2.61	2.55	2.56	2.63	2.58

*M-Judge：男性丁寧度判断者、F-Judge：女性丁寧度判断者

[丁寧度判断者の性別と丁寧度]

日本側は話者の性別にかかわらず、すべての場面において女性判断者のつけた丁寧度がかなりの差で男性判断者のつけた丁寧度より低くなっている。合計の結果も、女性判断者はM. 2.13、F. 2.61、平均2.37で、男性判断者のM. 2.53、F. 2.78平均2.66より0.29低い。特に、男性話者の談話に対する女性判断者の判定がもっとも低い。一方、韓国側は、場面によって異なり、TOTALの結果は女性判断者がM. 2.63、F. 2.58、平均2.61で、男性判断者のM. 2.55、F. 2.56、平均2.56よりやや高い。

つまり、日本の場合は女性判断者の方が丁寧度を低くつけるが、韓国は判断者の丁寧度判定にはほとんど男女差がないということが分かった。

3.2 丁寧さと言語的特徴

分析方法の第二分析に添って、談話に丁寧さをかもしだす言語的要因である主依頼文の文末表現について、押し付けの強弱と表現形式の種類の観点から丁寧度と性差の関係を比較分析する。

3. 2. 1 主依頼文の文末表現の男女差

(1) 依頼の間接度と押し付けの強弱

依頼表現が直接的な表現から間接的な表現へと移行するにつれて、相手に行動の選択の余地や決定権を与えることになり、発話全体の丁寧度が増加する(Leech1983)。例えば、依頼の場面で、ストレートに「～して」というより「～していただけますか」のように間接依頼文にしたり、「なんとかしていただけるとありがたいんですけど」と依頼を暗示的に示す表現を用いたほうが、より丁寧度を増やすことになる。そこで、日韓の主依頼文の文末表現を間接性の度合、すなわち、聞き手に与える押し付け度の強弱により、①最も強いタイプ、②強めのタイプ、③中間的なタイプ、④弱めのタイプ、⑤最も弱いタイプ、の5段階に分類⁸して、間接度の観点から表現のタイプにおける男女の特徴を考察する。その結果を表3(次ページ)と表4(次々ページ)に示す。

まず、日本の場合、男性が女性より多く使用するタイプは、強制力の最も強いタイプ(M. 28, F. 17)と強め (M. 28, F. 71)のタイプで、女性がより多く使っているのは中間的なタイプ(M. 56, F. 104)、弱めのタイプ(M. 17, F. 39)、最も弱いタイプ(M. 5, F. 14)の三つである。これに対して、韓国では、男性は最も強い(M. 17, F. 11)、弱い(M. 18, F. 10)、最も弱い(M. 18, F. 9)の3タイプを、女性は強い(M. 126, F. 133)、中間的 (M. 26, F. 60)の2タイプをより多く使用している。

さらに、日韓の男女の違いをより分かりやすく比較するために、押し付け度の5段階のタイプを強・中・弱の3段階にして男女の使用頻度を調べてみる。グラフ1とグラフ2で見るように、まず、強のタイプは、日本はM. 130(13)、

図1 文末表現のタイプ別使用頻度(日)

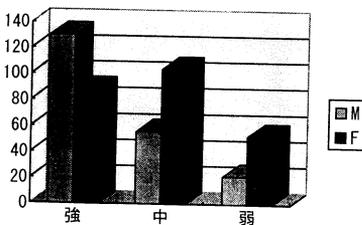


図2 文末表現のタイプ別使用頻度(韓)

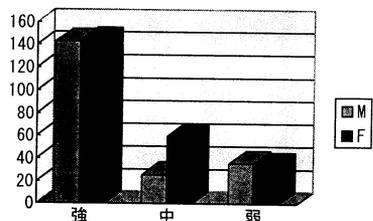


表3 文末表現のタイプ別使用度数 (日本)

	S 1		S 2		S 3		S 4		S 5		TOTAL					
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M		F			
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0			
2	8	4	7	5	8	4	0	1	5	3	28		17			
SUB・T	8	4	7	5	8	4	0	1	5	3	28	13.5	13.5	17	6.9	6.9
3	0	1	1	0	0	3	2	0	2	0	5		4			
4	11	15	10	12	1	1	2	3	2	5	26		36			
5	12(2)	3	12(3)	9	5(2)	5	22(4)	6	18(2)	8(1)	69(13)		31(1)			
6	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2		0			
SUB・T	23(2)	19	27	21	6(2)	9	26(4)	9	23(2)	131	102(13)	49	62.5	71(1)	28.9	35.8
7	3	19	6	13	0	0	2	7	1	5	12		44			
8	4	1	3	1	6	10	10	20	7	17	30		49			
9	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1		2			
10	0	0	0	0	1	1	0	1	0	1	1		3			
11	0	0	0	0	12(4)	6	0	0	0	0	12(4)		6			
SUB・T	7	20	9	14	19(4)	17	12	30	9	23	56(4)	26.9	89.4	104	42.4	78.2
12	0	0	1	3	0	0	1	1	0	3	2		7			
13	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0		3			
14	5	2	0	2	0	1	0	2	2	2	7		9			
15	1	3	1	2	1	0	0	0	0	2	3		7			
16	1	1	1	0	0	0	0	2	1	0	3		3			
17	0	0	0	0	1	8	1	2	0	0	2		10			
SUB・T	7	6	3	7	2	12	2	7	3	7	17	8.2	96.7	39	15.9	94.1
18	2	1	0	0	2	6	1	6	0	1	5	2.4	100	14	5.7	100
SUB・T	2	1	0	0	2	6	1	6	0	1	5	2.4	100	14	5.7	100

押し付け度

最も強い

強め

中間的

弱め

最も弱い

* () : 「です・ます」のついたもの

* SUB・T : SUBTOTAL

押し付けの度合

最も強い

強め

中間的

弱め

最も弱い

文末表現のタイプ

- 1 ~せよ、~しろ (命令形)
- 2 ~して、~してよ、~しない?、~しよう
- 3 ~してほしい、~したい、~してちょうだい
- 4 ~してくれる
- 5 ~してくれない (~してくんない)
- 6 ~してもらいたい
- 7 ~してもらえる
- 8 ~してもらえない
- 9 ~できる
- 10 ~できない
- 11 ~にならない (~になんない、~にならん)
- 12 ~していい
- 13 ~していけない、~したらだめ
- 14 ~してください
- 15 ~していただける
- 16 ~していただけない
- 17 ~だとありがたい、~だとたすかる、~だとうれしい
- 18 ヒント・含意表現

丁寧度
(低)

(高) ↓

表4 文末表現のタイプ別使用度数(韓国)

	S 1		S 2		S 3		S 4		S 5		TOTAL					
	M	F	M	F	M	F	M	F	M	F	M			F		
1	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	3			2		
2	0	0	0	0	7	6	7	3	0	0	14			9		
SUB・T	0	0	2	1	8	7	7	3	0	0	17	8.3	8.3	11	4.9	4.9
3	7	7	6	8	8	9	5	2	9	5	35			31		
4	1	0	2	1	9	13	4	1	10	12	26			27		
5	30	30	17	20	1	1	6	8	11	16	65			75		
SUB・T	38	37	25	29	18	23	15	11	30	33	126	61.5	69.8	133	59.6	64.5
6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1			0		
7	2	3	0	2	0	0	0	1	1	1	3			7		
8	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1			0		
9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0			2		
10	1	0	1	1	0	0	2	2	1	2	5			5		
11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1			0		
12	0	1	0	0	0	0	3	2	4	7	7			10		
13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0			2		
14	0	1	0	0	1	0	0	1	0	2	1			4		
15	0	0	0	0	0	0	1	6	2	0	3			6		
16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			1		
17	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0			2		
18	0	0	0	0	0	3	1	4	0	0	1			7		
19	0	0	1	1	1	5	1	8	0	0	3			15		
SUB・T	3	5	2	4	4	9	9	28	8	14	26	12.7	82.5	60	26.9	91.4
20	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0			1		
21	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0			1		
22	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			1		
23	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1			0		
24	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	1			1		
25	0	2	2	1	0	0	0	0	1	2	2			4		
26	0	0	1	0	6	0	1	0	0	0	8			1		
27	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3			1		
28	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0			1		
29	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3			0		
SUB・T	4	4	4	1	6	2	3	0	1	3	18	8.8	91.3	10	4.5	95.9
30	6	2	5	1	0	3	4	2	3	1	18			9		
SUB・T	6	2	5	1	0	3	4	2	3	1	18	8.8	100	9	4.0	100

押し付け度

最も強い

強め

中間的

弱め

最も弱い

- | | | |
|------|-----------------------|-----------------|
| 最も強い | 1 ~해 | 16 ~해줄 수 없을까 |
| | 2 ~해라, ~해봐 | 17 ~하면 안되 |
| 強め | 3 ~해줘 | 18 ~하면 안되겠니 |
| | 4 ~해줘라, ~해주라 | 19 ~하면 안될까 |
| | 5 ~해줄래 | 20 ~해줘요 |
| 中間的 | 6 ~하지 | 21 ~하면 안되요 |
| | 7 ~해주겠니 | 22 ~할 수 있을까요 |
| | 8 ~해주렴 | 23 ~하면 안될까요 |
| | 9 ~하지않을래 | 24 ~해주지 않을래요 |
| | 10 ~해주지 않을래 | 25 ~해주실래요 |
| | 11 ~할 수 없니 | 26 ~해주세요 |
| | 12 ~해줄 수 있니, ~해줄 수 있어 | 27 ~해주시겠어요 |
| | 13 ~해줄 수 없니 | 28 ~해주시면 고맙겠는데요 |
| | 14 ~할 수 없겠지, ~할 수 없겠니 | 29 ~해주시겠습니까 |
| | 15 ~해줄 수 없겠니 | 30 힌트/암시적 표현 |
| | | 弱め |
| | | 最も弱い |

F. 88で男性の方が断然多く使っているのに対して、韓国の場合はM. 143, F. 144でほとんど差がない。中のタイプは日本側がM. 56(4), F. 104、韓国側がM. 26, F. 60で日韓両方とも女性の方がより多く使用している。弱のタイプにおいては、日本側がM. 22, F. 53で、女性が男性の2倍以上を用いているのに対して、韓国ではM. 36, F. 19で、日本とは違って男性の方が女性より2倍近く多く使用している。

これらのことから、日本では、同じ場面で同じ依頼をするのにも女性は男性より押し付けを和らげた間接度の高い依頼文を多く用いるが、韓国ではそのような男女差はあらわれないことが分かった。

(2) 文末表現の表現形式

文末表現の表現形式を詳しく見ると、押し付け度の強弱に加えて談話の丁寧度と関わる特徴において次のような男女の違いがあることが分かった。

[敬語表現]

主依頼文に用いられた敬語表現としては、日本語には尊敬語の「くださる」と謙譲語の「いただく」があり、韓国語には尊敬語の「-께 주시다」がある。日韓それぞれの敬語表現の使用頻度を調べてみると、日本は、男性13回・女性19回で、女性の使用が多くなっているのに対して、韓国の場合は、男性16回・女性7回で、男性の使用が多くなっている。周知の通り、日本語と韓国語において敬語の使用は談話の丁寧度を計る際に最も重要な要素であるだけに、男女の敬語使用の違いは注目に値する特徴である。

[非標準形の発音]

韓国には現れないが、日本では標準形の発音から少しずれた変異形の発音の使用が見られる。表3の括弧つきの項目が変異形の表現であるが、すなわち、「～してくんない」、「～になんない」、「～にならん」がそれである。これらの変異形は談話にくだけた感じを与え、丁寧さの面から考えるとマイナス役割をしていると言える。変異形の出現度数は「～してくんない」が14回、「～になんない」・「～にならん」が4回で計18回現れているが、その中で男性は17回、女性の使用は1回のみである。従来の性差研究において女性は逸

脱形の表現をさける傾向があると言われているが、それを裏付ける結果である。

[授受表現]

主依頼文の文末に使われている補助動詞に着目してみると、授受動詞が頻繁に使われていることが分かる。日本語の依頼文に使われる授受動詞には、与え動詞「くれる」・「くださる」と受け動詞「もらう」・「いただく」の各二種類がある。各々前者は常体で、後者は前者の敬体となっている。

与え動詞「くれる」・「くださる」の動作主は、与え手、すなわち聞き手であることから、与え動詞では話し手の視点は依頼を遂行する聞き手に置かれる。このため、押し付けのニュアンスが強くなる。一方、受け動詞「もらう」・「いただく」は、動作主が受け手、すなわち話し手であることから、話し手の視点は自分の側にある。このため、与え動詞のように聞き手の動作を直接言及しないことにより、押し付けが和らぐことになる。

そこで、与え動詞と受け動詞の男女の使用頻度を調べてみると、与え動詞は男性102回・女性76回で、明らかに男性が多く使っている。一方、受け動詞は男性50回・女性103回で、女性が男性の二倍以上多く使用している。

4. おわりに

二段階による総合的な分析の結果、「言語行動において女性が男性より丁寧である」という仮説は日本語では立証できたが、韓国語では立証できなかった。この結果から、男女のある特定の言語行動はコンテキスト、特にカルチュラル・コンテキストによって異なることが明らかになり、従来のフェミニズム言語学で説かれるのと異なり、女性の社会的権力のなさや丁寧な言語行動は直接に結び付かないことが分かった。つまり、文化や社会によって性差によることば遣いの特徴は多様であり、女性が社会的に低い位置にいるからと言って必ずしも丁寧なことば遣いをするとは限らないのである。言語と社会の関係を因果関係的に一律に捉える従来のフェミニズム言語研究の視点は再考の余地があると言わざるをえない。さらに、言語や言語行動を性差別イデオロギー撤廃運動の拠り所にしていくためには、民族や地域を越えたよ

り広い視点で言語使用の現状を観察し分析した上で、その結果をフェミニズム運動に反映していくべきであろう。

注

- 1 フェミニズム言語学や社会言語学などで、この仮説を検証するためのいくつかの研究が行なわれたが、その研究のほとんどが英語に関する分析であるため、丁寧さがあらゆる民族や文化圏の女性語の普遍的な特徴であると考えすることはできない。また、そのほとんどがこの仮説を立証するものである。代表的な研究に、Brend, R. (1975)、Edelsky, Carole(1977)、Brown, P. (1980)などがある。
- 2 それほど親しくない親疎関係というのは、親疎の度合を最も親しい場合を5とし、最も親しくない場合を1というふうに5段階スケールにおいた時、2ぐらいの親疎関係の人である。また、あまり親しくない人を話し相手に設定したのは、年齢や身分など社会的条件の同一な間柄でありながらも、日韓両語において、ある談話の丁寧度を測定する際に、最も重要な尺度になる敬語の使用が見られると考えたからである。
- 3 第三者に談話資料の丁寧度の判断を数字で示してもらうような方法を取っている研究には、Susan(1981)と川成(1984)がある。
- 4 本調査で仮定した丁寧度のものさしは次のようなものである。ものさしを9段階に分けたのは、予備調査の段階で日韓の何人かの人に部分的に談話の丁寧度を判定してもらった結果、9段階が最も適切であるという意見が多く出たからである。このように、丁寧度をはかるためにものさしを設けている研究には井出他(1986)がある。ただし、井出他(1986)では5段階にレベル分けしたものさしを設けている。

[本調査で仮定した丁寧度のものさし]



- 5 第二分析はZimin(1981)と川成(1985)の研究から教わったところが多い。
- 6 川成(1993)を参照。
- 7 一般の人々に丁寧度の直感的評価を依頼したのは、従来の性差と丁寧度の研究におい

ては、言語学的分析を行なった結果、女性がより丁寧話すという結論を出していたのだが、筆者は言語学的分析を行なう以前の問題として、私たちがほんとうに女性の発話を聞いて男性の発話より丁寧だと感じるかどうかを知るためである。

- 8 日本語においては、基本的には川成(1985)の立てたカテゴリーに従って18タイプに分類した。韓国語では、荻野他(1988)の立てた丁寧度による依頼表現のタイプを参考に筆者の内省で30タイプに分類した。ここで、大きく5段階に分けたのは、両語の文末表現の一対一の個別的対応は不可能であるため、日本語と韓国語と比較が可能になるように同一の段階に分類した。

参考文献

- ・井出祥子(1982)「待遇表現と男女差の比較」『日英語比較講座 文化と社会 第五巻』大修館書店P.107-169
(1986)『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- ・李孟成(1975)「韓國語 終結語尾와 對人關係要素의 相關關係에 관한 연구(1)」人文科學第 33,34 合輯
- ・荻野綱男(1988)「日本語と韓国語の聞き手に対する敬語用法の比較対照」朝鮮学報第136輯
- ・厳廷美(1997)「日本と韓国の大学生の依頼の場面でのHedge表現使用における男女差の比較—主に丁寧さ(Politeness)の視点から—」『ことば』18号、現代日本語研究会
- ・厳廷美(1999)「日本語と韓国語の依頼のストラテジー—MOVEの観点から—」『言語情報科学研究』4号、東京大学言語情報科学研究会
- ・川成美香(1985)「要求表現に見られる丁寧度の男女差」『社会の中の言語—記号・人間・環境の総合作用』F.C.パン他編、文化評論出版、1985, pp. 72-90
(1993)「依頼表現」『日本語学』Vol.12 pp. 125-134
- ・김선희(1991)「여성어에 관한 고찰」『목원대학 논문집』第19輯
- ・国立国語研究所(1990)『敬語教育の基本問題(上・下)大』大蔵省印刷局
- ・Brend, R. (1975) *Male-Female intonation pattern in American English*. B. Thorn and N. Henry (eds), *Language and Sex*, P. 84-87. Mass: Newbury House.
- ・Brown, P. (1980) *How and Why are women more polite: Some evidence from A Mayan Community*. S. McConnell-Ginet, R. Borker, and N. Furman (eds.), *Women and*

Language in Literature and Society, P. 111-139. New York: Praeger.

- Edelsky, C. (1977) *Acquisition of aspect of communicative competence: Lwarning what it means to talk like a lady*. S. E. Tripp and C. M. Kernan (eds), Child Discourse, P. 225-243. New York: Academic Press.
- Keenan, Elinor (1974). *Norm-makers, norm-breakers: Uses of speech by men and women in a Malagasy community*. In Richard Bauman & Joel Sherzer (eds.) Explorations in the ethnography of speaking (p. 125-143). Cambridge : Cambridge University Press
- Lakoff, Robin (1973) *Logic of politeness*, Chicago Linguistic Society 9
(1975) *Language and Women's place*. New York: Harper and Row
- Leech, Geoffrey N (1983) *Principles of Pragmatics*. London : Longman
- P. Brown and S. Levinson (1978) *Universals in Language usage: Politeness Phenomena. Questions and Politeness*, Cambridge University Press. P. 55-288
- Susan. Zimin (1981) *Sex and Politeness : Factors in First-and Second-Language use*. International Journal of Secondary of language 27
- Tannen, Deborah (1990) *You Just Don't Understand: Women and Men in Conversation*. New York: William Morrow.